

編集後記

お茶の水女子大学ジェンダー研究年報『ジェンダー研究』第12号が無事、刊行の運びとなった。執筆者の方々、査読の先生方、校正をお願いした方々、IGSスタッフの皆様、編集委員の先生方など、本号刊行にご協力いただいた方々に、改めて深くお礼申し上げたい。

今号では、3つの特集を組むことができた。最初に、2008年3月15日に、IGSの主催で行われた「国際ワークショップ 環太平洋におけるワーク・ライフバランス」の際に招聘した南オーストラリア大学のバーバラ・ポコック先生、レスブリッジ大学（カナダ）のメアリー・ルンテ先生に、ワークショップでお話いただいた内容について執筆いただいた。次に2008年7月31日に開かれた「レイ・チョウコロキウム」講演会報告では、レイ・チョウ先生にお話いただいた内容について、先生の著作からの転載という形で掲載させていただいた。また、コロキウムの際に、応答者として発言いただいた新田先生と山口さんのコメントを、ほぼそのまま掲載させていただくことができた。こうして、この大変に興味深いコロキウムの内容が、本誌を通して多くの方々に伝えられることは、喜ばしいことである。

2008年は、日本人が初めてブラジルに移民してからちょうど100年目に当たる年であり、「日伯交流年」として、日本とブラジルの各地で、記念行事が行われた。2009年1月29日には、IGS主催の「IGS研究委員会2008」が開催されたが、この第一部を「日本ブラジル交流年記念 ―ブラジル文化とジェンダー研究―」とし、ジェンダーに関する日系ブラジル研究の発表が行われた。本誌でも3つ目の特集を、「日本ブラジル交流年記念」として、ブラジルのエスプリト・サント連邦大学の研究者らによる、19世紀のブラジル人女性の社会的状況に関する研究報告、そして、私が個人研究として行っている、日系ブラジル女性文化について、ブラジルの「ニッケイ」と日本の「デカセギ」を比較した研究について報告させていただいた。これら2本のブラジルに関する研究報告により、本誌は、IGS研究委員会と合わせて、外務省より「日伯交流年事業」として認定を受け、表紙にこの事業を記念したロゴを掲載させていただくことが出来た(認定番号485番)。

研究論文としては、5本の若手研究者の論文を掲載することが出来た。内容としては、人文学系から社会科学系、そして、日本のみならず、イスラム社会から、東アジアまで幅広い研究対象についてのジェンダーに関する興味深い論文を掲載することができた。

今号は、これまでとは少々趣を変えて、IGSの活動内容が反映されるような編集を心がけてみた。その結果、3つの特集という、これまでにない形態の『ジェンダー研究』が完成した。これからも、『ジェンダー研究』が、IGSの活発な活動内容を反映し、かつ、時代の流れと呼応しながら発展しつづけていくことを願ってやまない。

最後に、今号の刊行にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げますと共に、今後とも『ジェンダー研究』への支援、協力をお願い申し上げたい。

編集事務局 山出 裕子（研究機関研究員）

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報
『ジェンダー研究』

第 12 号 編集委員会

委 員 長	足立真理子	ジェンダー研究センター長
		人間文化創成科学研究科准教授
	坂本 章	文教育学部人間社会科学科教授
	徳井 淑子	生活科学部人間生活学科教授
	三浦 徹	文教育学部人文科学科教授
	森 義仁	理学部化学科准教授
	館 かおる	人間文化創成科学研究科教授
事 務 局	申 瑛榮	人間文化創成科学研究科准教授
	山出 裕子	ジェンダー研究センター研究機関研究員

平成21年3月19日 印刷
平成21年3月26日 発行

編集・発行 お茶の水女子大学ジェンダー研究センター

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845
E-mail igs@cc.ocha.ac.jp
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 福博印刷株式会社

Tel 03-5765-6775 Fax 03-5445-6795